

研究発表申込フォーム

氏名：廣田 千恵子

氏名のローマ字表記：HIROTA Chieko

所属：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

専門分野：文化人類学、物質文化研究

発表のタイトル（日本語）：馬具・投げ縄の制作と使用にみるカザフ牧畜民の知識とその解釈

発表のタイトル（英語訳）：Interpreting the Knowledge of Kazakh Herders in the Production and Use of Horse Lassos

発表要旨（日本語で 600 字～800 字程度）：

本報告の目的は、モンゴル国カザフ牧畜社会を事例として、ウマ飼養をおこなう上で欠かせない道具である縄アルカンの制作過程と使用方法に着目し、縄というシンプルな線状具からいかなる社会的・文化的情報を読み取り得るのか、その解釈を試みることである。

アルカンとはカザフ語で縄全般を指す言葉である。カザフ牧畜生活の中で用いられる縄の種類は多様である。そのなかでも、本発表では男性が制作する革製の縄を考察対象とする。

調査地であるバヤン・ウルギー県ボルガン郡は、県内でもとりわけ高低差のある地形をもつ。この地域では小家畜の飼養において移動手段としてのウマが欠かせない。半野性的に放牧されているウマを乗用として使用するために、カザフ人は革縄を投げて捕獲する。

その縄を作る工程は、大きく 4 つに分けられる。革をなめす作業、革を切る作業、革を編み込む作業、そして編み込んだ縄を道具として仕上げる作業である。発表者はカザフ人世帯で牧畜民と共に縄を作る作業をおこなった。縄作りの工程には、縄の耐久性を高めるための工夫と、縄でウマを傷つけないようにするための工夫が随所に確認された。

一方で、それらの工夫は、必ずしも全ての牧畜民に共通しているわけではなく、個人差があるということがわかった。また、縄の作りが単純であるからこそ、新しい手法が個人によって発案されることもある。

こうした工夫やアイディアは、コミュニティにおける男性同士の交流の中で共有され、構築されている。縄作りの技法の柔軟さ・多様さからは、ものづくりにかかわる技法の継承がたとえば父子など血縁関係内で限定されることなく、ローカル社会の中で積極的に営まれてきた様子が垣間見える。また、良い縄は作り手のものづくりの技量の高さだけではなく、ウマに精通しているという知識の深さを示すものであり、カザフ人社会における男性性を象徴的に示す道具ともなっている。